

活動レポート

地域産業研究会

第7回「食の討論会」及び平成20年度「総会・特別講演会」

第7回 食の討論会報告

1. はじめに

地域産業研究会では、「食」をテーマとした討論会を平成17年度より継続的に開催しています。

第7回の食の討論会は「食と地域活性化を繋ぐ」をテーマとして、2008年(平成20年)2月5日に伊達市の㈱アップデート取締役井餘田浩司氏を講師に招き「日本一住んでみたいまちへの挑戦——生活者と生産者の共生によるまちづくりの実践——」と題した講演と討論会を行いました。



講演会 講師 井餘田浩司氏

2. 講演会の概要

① 伊達ウエルシーランド構想

伊達市は「北の湘南」と呼ばれる北海道の中でも雪が少ない比較的温暖な地域であり、豊かな食材にも恵まれ、生活利便施設を備えた暮らしやすさから「自然と気候と都市機能」のバランスの良さが魅力的なまちとして、近年北海道内外からの移住者・定住者が増加し、それに伴い税収や地価も上昇している。

しかし、高齢化率が30%近い高い値を示しているなど着実に少子高齢化が進んでいるため、その対策として伊達市では「伊達ウエルシーランド構想」を立ち上げ、官民協働による住みやすさと“まち”の魅力向上への以下のような施策展開を進めている。

1) 多様な住環境の提供

- ◎伊達版安心ハウス
- ◎優良田園住宅
- ◎住宅流通(住み替え支援)

2) 生活の足の確保

- ◎ライフモビリティ

3) 健康・観光サービスの充実

- ◎運動・食事・健康

② 株式会社アップデートの取り組み

伊達ウエルシーランド構想の取り組みには、伊達市内の株式会社アップデート(以下、アップデート)が構想の実行部隊として参画している。

情報サービス会社としてスタートしたアップデートは、これまでにCATV事業やポータルサイトの立ち上げ等に携わってきたが、職員の約半数を占める道外からの移住者の体験を生かした移住情報提供・移住サポート事業(むしゃなび・きたスロ)や、大手商社、大手電機会社の勤務経験を活かした各種サービス事業(スロウま・田園せきない)に取り組んでいる。

③ 日本一住んでみたいまちへの挑戦

伊達市では、「日本一住んでみたいまちへの挑戦」という大きな目標を掲げ、伊達市及び近隣市町村の特徴を活かしながら、「生活者(地域住民・移住者等)と生産者(地元企業・農林漁業者等)との共生・協働によるまちづくり」を実践している。特に、昨年3回開催した地元産の農林水産物をゆっくりと楽しむマーケット「スロウま」は、地域活性化の大きな柱として、また、新たな地域ビジネス創出の起爆剤として期待が寄せられており、これからも継続して実施していく所存である。

平成20年度 総会・特別講演会報告

1. はじめに

2008年(平成20年)4月8日に「平成20年度地域産業研究会総会」をドーコン新札幌ビル会議室に

において開催しました。総会では、住友技術士を議長に選出し、全体行事及び各分科会の平成 19 年度の活動経過と平成 20 年度活動計画が報告されました。また、第 3 番目の分科会として資源・環境・健康分科会の発足主旨を橋本技術士から報告され、承認されました。

総会終了後、酪農学園大学の干場信司教授を講師にお迎えし、「北海道農業の展望 ― 循環型農業を求めて ―」という演題で特別講演会を開催しました。



特別講演会 講師 干場信司教授

2. 特別講演会の概要

① 北海道における各種農業問題の根源は何か？

1) 牛乳消費減少に係わる生産調整問題

海外から購入した飼料に依存した牛乳生産で良いだろうか、という「牛乳生産システム」そのものも問題視していることによる。

2) FTA/EPA 及び濃厚飼料の高騰問題

海外からは何をどれだけ輸入するのかという、わが国農政の根幹が問われている。

3) 環境問題

飼料の海外依存体質からもたらされている家畜糞尿の処理技術の開発だけで解決されない問題である。

4) 家畜福祉問題

家畜の飼い方や屠殺の仕方で家畜の快適性を図る。

5) 酪農家における生活問題

酪農経営と家事の両立等、生活問題は依然根が深い問題である。

② 総合的評価の必要性

◎濃厚飼料給与量が経済性、環境負荷、家畜の健

康及び生乳者の満足度に与える影響を評価する。

1) 経済性指標：農業粗収入－農業支出（農業所得及び農業所得率）2) 環境負荷指標：投入窒素（飼料、肥料に含まれる窒素）－算出窒素（牛乳、固体販売）＝余剰窒素 3) 家畜の健康指標：家畜の診療費の動向で評価 4) 生乳者の満足度指標：作業者に対する満足度アンケート（5段階評価）で評価

◎濃厚飼料投与量の増加に対する傾向

1) 乳量：初期は増大するが頭打ち。2) 所得：乳飼比は高まるが、結果は所得増加にならず、逆に弱い負の相関。3) 余剰窒素：余剰窒素と正の相関が大きく、環境負荷に強い影響を及ぼしている。4) 家畜診療費：家畜診療費と正の相関が大きく、家畜の健康悪化に強い影響を及ぼしている。5) 人間の満足度：満足度を高めているとは言えず、逆に弱い負の相関。

③ 北海道農業の主張：北海道では、本物の農業によって本物の食品を生産する。

1) 農家の役割：安全で良質な食料を出来るだけ安く提供する。（農家の生活はもちろん確保する）

2) 農協の役割：農家の生産・生活をサポートする。

3) 普及所の役割：農家が自分で考え自分で実行するために、農家の考えを具現化するための支援をする。

4) 行政の役割：日本・各地域で何をどれだけ自給するか、何をどれだけ輸入するか、明確な方針を示す。

5) 企業の役割：生産者と消費者を結ぶ加工、流通、販売を行う。

6) 教育・研究機関の役割：現状を正確に把握し、将来方向を見極めるとともに、それを支える技術・哲学を構築し、このことを理解した学生を育てる。

④ おわりに

本物の農業とは「健土健民」であり、風土に適した生産・遺伝・育種・繁殖などを総合的に評価し、総合的に研究することである。そして、北海道ならではの酪農業を構築するためのキーワードは「物質循環と日本型社会」である。

（文責：地域産業研究会幹事 住友 寛）